

これからの経営におけるDXを学ぶ

福井県中小企業診断士協会が主催し、今話題となっている「対話型AI「ChatGpt」をはじめとしたDXの今後の経営における活用について学んだ。令和6年2月15日午後2時から、福井商工会議所ビル地下国際ホールにて、県内の中小企業経営者や診断士協会メンバーら総勢31名が受講した。

講師は、(有)詩季の社長である佐藤宏隆氏。佐藤講師は、富士通(株)に勤務後、2013年に家業を継いだ。その内容は第二創業というべき現在のIT支援コンサルタント業。良い意味で、社名と事業内容が一致しないと知り合いからよく言われるとのこと。現在各支援機関の専門家としても活躍、福井商工会議所青年部の5年度会長も務めている。

我々がよく耳にする「DX」は、企業規模が小さいほど取り組んでいないところが多く、その取り組みについても、【アナログ・物理データのデジタル化】や【業務の効率化による生産性の向上】から【新規製品・サービスの創出】【顧客視点の価値創出によるビジネスモデルの抜本的な変革】へと内容が変わってきているようだ。

なお佐藤講師は、ChatGpt等生成AIについて、実際のデモンストレーションで機能を具体的に紹介、将来の可能性を言及したが、進化中の機能が災いし、不確実な回答を導き出してしまうこともあるため、その部分とどうつきあうか、実用には注意を要することを説明した。

AIが人を補い、高い利便性を実現した社会が到来することにそれほど時間を要しないかもしれない。得手不得手を問わず、経営者ならばこのDXへ対応した経営に取り組む必要があるのではないか。



講師の(有)詩季
佐藤宏隆社長

👉 DXと対話型AI

- 対話型AIはツール。DXで目指す姿とのギャップを埋める方向を検討
- システム化しにくい部分を埋める
 - ・自然な言葉で指示が出せる
 - ・情報を集める、要約するなど非定型業務
- これまでできなかった部分を埋める
 - ・事前にルールを決めないチャットボット
 - ・画像の内容を分析し言語化